

## 6.3 教育方法のあり方

### 進捗状況報告

経営戦略専攻

#### 1. 教育方法

ビジネスの現場で不可欠な意思決定能力、問題解決能力を養成するために、全科目において、講義や演習の他に、さまざまなテーマを取り上げたケーススタディやグループワークを組み合わせた実践的かつ双方向的な授業を行っている。ほぼすべての教室で、インターネットと接続したパソコンやプロジェクター、OHC、ビデオなどの視聴覚機材が備え付けられており、授業ではそれらが活用されている。また、担当教員以外に外部の特別ゲストを招いて授業が行われることもある。こうした授業計画は、履修案内や大学院要覧などの紙媒体の他に、ネットシラバスで公開されている。学生は授業の各回の細かい授業計画をいつでも見られるようになっており、授業はシラバスに即して行われている。

#### 2. 少人数教育

教員一人当たりの学生数は6.8名(企業9.3名、国際2.7名)である。授業1科目あたりの学生数は平均13.0名(企業18.8名、国際4.1名)と、基本的に少人数教育が徹底されている。特に、MBAコースの集大成としての課題研究、Individual Research、その準備のための課題研究基礎、Group Research Projectはきめ細かい個人指導が積極的に行われている。1科目当たりの受け入れ人数を最大9名までとしており、実際の履修者は1科目当たり平均課題研究4.1名、Individual Research 1.5名、課題研究基礎8.5名、Group Research Project 3.0名となっている。

上記の4科目以外でも、オフィスアワーを設けることによって学生個人・グループからの質問・相談に対応する形できめ細かな個人指導、グループ指導を行っている。また、学内外からいつでもアクセスできる掲示板を利用して、授業前後に授業の準備や授業内容の補足に必要な資料やアドバイスがアナウンスされる。

さらに国際経営コースでは、インターンシップ制度、海外ビジネススクールとの提携プログラムなど国際色豊かなプログラムを取り入れ、希望者を募って選抜している。

#### 3. マルチメディア

レジュメのスライド表示、PCによる演習、学生によるプレゼンテーション等、一部の授業で利用している。

会計専門職専攻

#### 1. 授業方法

コア科目群においては、基礎的な能力を涵養するために講義を中心とした方法により授業を行っている。これを踏まえ、ベーシック科目群においては、理論と実践の橋渡しとなるよう、講義に演習を加味した授業を行っている。アドバンス科目群においては、会計専門職として必要とされるトータルな能力を磨くため、講義、演習に加え、ケーススタディ、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークという双方向的な要素を取り入れた授業を展開している。ただし、いわゆる論文作成指導のような個人指導を行う開設科目はない。

なお、テキストを指定するだけでなく、教員が独自に作成したレジュメに基づいて行われている授業もある。この場合、ネット上の授業連絡ボードにレジュメ等の資料を事前にアップし、予習に支障がでないように配慮している授業がある。

この結果、2006年度秋学期の授業評価のためのグループインタビュー調査では、議論を交えた身に付く授業の展開、理論に終始せず実例を交えた分かりやすい授業、リアルタイムな実例を取り上げた分かりやすい授業といった評価が得られている。

#### 2. 少人数教育

少人数教育が実施できるよう、コア科目群およびベーシック科目群については複数のクラスを開設し、昼間時間帯および夜間時間帯(土曜日を含む)に配置している。ただし、社会人学生の時間の制約もあり、夜間時間帯(土曜日を含む)の授業には、一部、多人数のクラスがある。また、アドバンス科目群については1クラスの開設のため、一部、多人数の科目がある。

#### 3. マルチメディアの利用

レジュメのスライド表示、PCによる演習、学生によるプレゼンテーション等、一部の授業で利用している。

### 学内第三者評価

教育方法については、両専攻とも、講義、演習、ケーススタディ、グループワーク、個人指導、グループ指導など、様々な方式の組み合わせにより実施されており、専門職大学院設置基準第8条に則った取り組みを展開していることは評価できる。また、マルチメディアを授業に活用するだけでなく、掲示板システムとしても授業情報を発信していることも評価できる。このような取り組みは授業評価でも高い評価を得られている。

少人数教育も実施されている。特に、経営戦略専攻において、課題研究、Individual Research等は徹底化されており教育効果を上げることに寄与していると推測される。会計専門職専攻では、多人数科目・クラスがあるとのことだがその解消に向けての改善が望まれる。

なお、研究科では、両専攻でグループインタビューを行い、受講生の意見を吸い上げ、学生による授業評価で高い評価を受けていることは評価できる。ただし、そのグループインタビューによって学生の不満などがあつたことが予想されるが、その点についての記述と新たな目標設定があることが望まれる。